

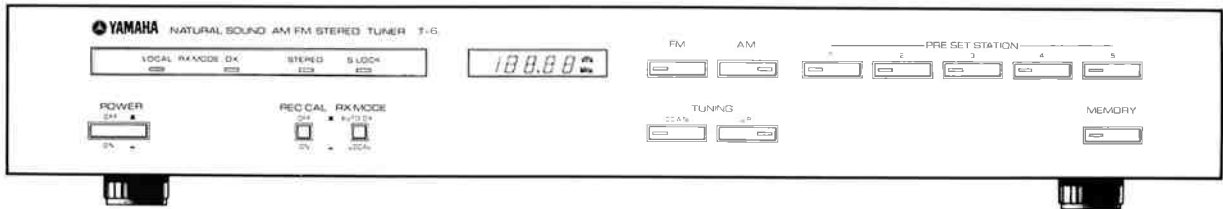


**YAMAHA**

**NATURAL SOUND  
AM/FM STEREO TUNER**

**T-6**

取扱説明書



このたびは、ヤマハ・ステレオチューナー T-6 をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。T-6 の優れた性能を充分に発揮させると共に、長年支障なくお使いいただくために、この取扱説明書をご使用前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

## ■目次

特長	1
ご使用になる前に次のことにご注意ください	2
接続図/接続方法	3
各部の名称と機能	5
プリセット及び AM,FM 放送の受信の仕方	7
ブロックダイアグラム	8
参考仕様	9
故障と思われるときには・メモリーカード	10
サービスのご依頼について	11

## ■特長

### ●高性能 FM チューナー部

ローゲインデュアルゲート MOS FET 使用の RF 増幅段、バルンタイプ・プリセクター付き 3 連ツインバラクターダイオードのフロントエンド及び、低損失ユニレゾナンスセラミックフィルターを DX 側に 4 素子、LOCAL 側に 2 素子（全段位相補正回路付き）使用の AUTO DX 回路＋カレントリミッター付き 6 段差動増幅回路の IF 段、さらにスタビライザー付きウルトラリニアレシオ検波回路を備えた FM チューナー部は、優れた妨害排除特性に加え、高感度、低歪率、高選択度を確保しています。

### ●FM MPX 部

バイポーラ DC NFB スイッチングタイプ MPX デコーダー段は、専用 IC による妨害排除型 PLL システムとトラッキングタイプのパイロットキャンセル回路及び、DX 回路と連動のオートブレンド回路から構成され、高 SN 比、低歪率で透明度の高い再生音を得ています。

### ●AUTO DX 回路（FM 部）

IF 段に妨害検出方式の LOCAL-DX 自動切り換えの AUTO DX 回路を付属しており、さまざまな電波のクオリティを自動的に検出し、音質と選択度のバランスをコントロールして RX MODE インジケータで動作を表示します。

### ●高性能 AM チューナー部

2 連バリコン相当の非同調 RF カスコード増幅段、差動ミキサー、トリプルチューン＋シングルチューンの IF 増幅段、低歪率検波段から構成されるスーパーヘテロゲイン方式の AM チューナー部は、電界性雑音に強い低インピーダンス・ループアンテナと共に、AM 放送を高忠実度で安定に受信します。

### ●チューニングシステム

FM 放送 5 局、AM 放送 5 局をメモリーするプリセットチューニング回路は、POWER スイッチ OFF 時でもメモリーを続けるバックアップ回路を備えています。また、SLL（ステーション・ロック・ループ）IC によるオートサーチ・チューニング方式で操作性のよいチューニングを可能にしています。

### ●多彩な付属回路

7セグメント LED による周波数デジタル表示器、FM、AM リードアウト回路、REC CAL 録音レベル設定信号回路など多彩な付属回路を内蔵しています。

### ●新感覚のデザインと操作性

優れた基本性能のもとに、新感覚で優美なデザインと優れた操作性を合わせ持ったパネルデザインは、ヤマハならではのデザインです。

# ご使用になる前に次のことにご注意ください



## 設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となりますのでご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- 温度の特に低い場所
- 湿気やホコリの多い場所
- 振動の多い場所
- 磁気の強い場所(テレビやモーターの近く)



## 水に濡れたら

万一雨が降ったり、花びんなどの水をセットにこぼした時は、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。



## ケースを開けない

トップカバーや底板を開けて内部に手などを入れますと、故障や感電事故を起こすことがあります。何か異物が入ったときには、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。



## FM アンテナを

放送局から離れた場所や、ビルなどが多く受信状態が悪い時には、FM 専用アンテナを建ててクリアな FM 放送をお楽しみください。



## 落雷に対する注意

落雷のおそれのある時には、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。また、アンテナからのケーブルを端子からはずし、ケーブルには絶対さわらないようにしてください。



## 電源コードも大切

コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜く時は、コードをひっぱらないで必ずプラグを持って抜いてください。

※本機は国内仕様です。必ず AC100V の電源コンセントにプラグを差し込んでお使いください。

※2 日間以上電源プラグを抜いておきますと、本機のメモリーした局は消去されます。

その場合は再度プリセットしてください。



## セットの移動

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため必ず電源プラグを抜き、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。



## セットのお手入れには

セットをベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布したりすることは避けてください。

お手入れには、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。



## 予備電源コンセント

背面パネルの AC OUTLET の容量は、300W となっておりますので、300W 以上の消費電力の機器を接続しますと電源コードやソケット類が発熱して危険ですから絶対に 300W 以上の機器は接続しないでください。



## もう一度調べてください

故障かな?と思ったら、まず10ページの“故障と思われるときには”を見てください。意外なところで操作を誤っていることがあります。



## 保証書の手続きを


お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。よろしくお願いいたします。



## 保管してください

この取扱説明書をお読みにになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

これは電子機器工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。



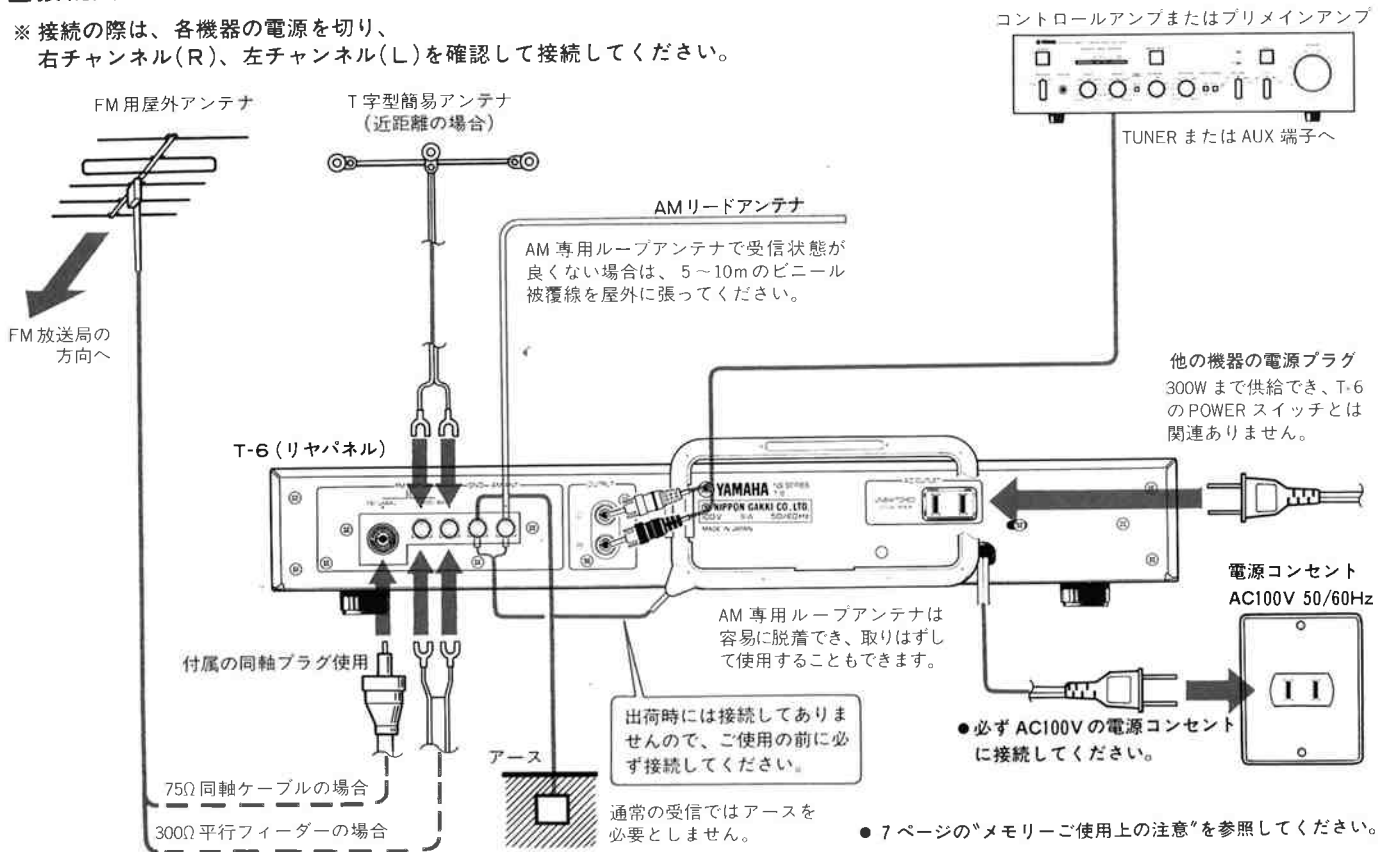
### 音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりするのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

# 接続図/接続方法

## ■ 接続図

※ 接続の際は、各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認して接続してください。

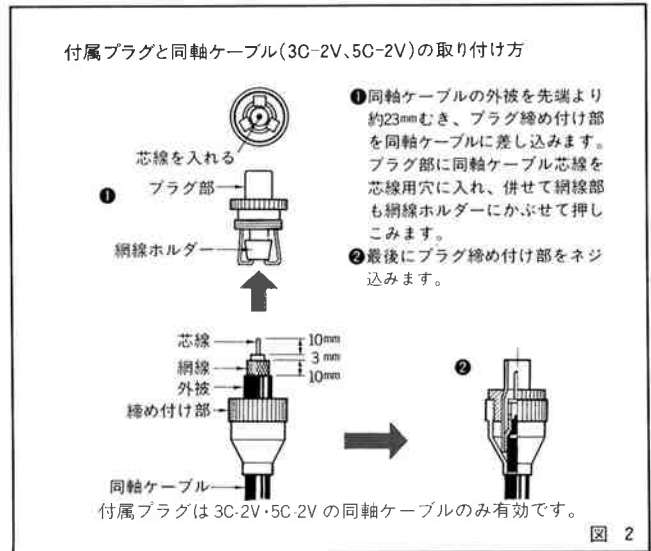
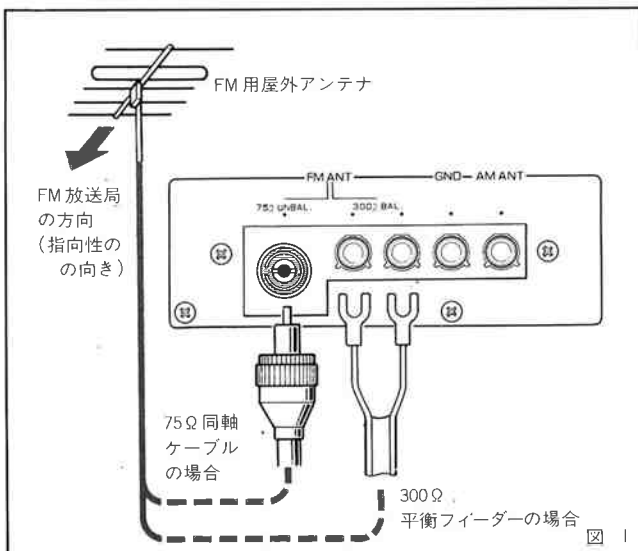


## ■ FMアンテナの接続

FM電波は受信する地域の状況（放送局から離れた地域や、ビルや山のかげなど）によってクリアな受信ができにくい場合がありますので、ご使用になる地域の電波の強さに応じたアンテナを設置するようにしてください。本機のリアパネルには、FMアンテナの接続端子として300Ω平衡フィーダー線用と、75Ω同軸ケーブル用の2つの端子があります。

FMアンテナとの接続には、300Ω平衡フィーダー線または75Ω同軸ケーブルのどちらでも使えますが、オートバイや自動車のイグニッションノイズなどの外部雑音が多い場合には75Ω同軸ケーブル（3C-2Vや5C-2V）をご使用ください。

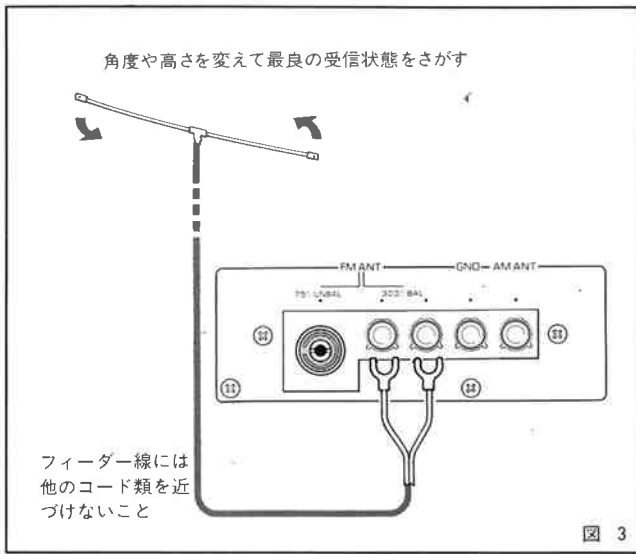
なお、付属プラグの取り付け方法は図2を参照してください。



## ■FM T字型簡易アンテナの接続

付属のT字型簡易アンテナは、放送局に近い電界強度の強い地域で受信する場合に使用してください。

図3のように、アンテナのフィーダー線をリヤパネルの300Ω端子に接続し、水平部分の両端をピンと伸ばしてゆっくりと180度回転させながら、最も受信状態の良い方向を選び、壁などに固定します。



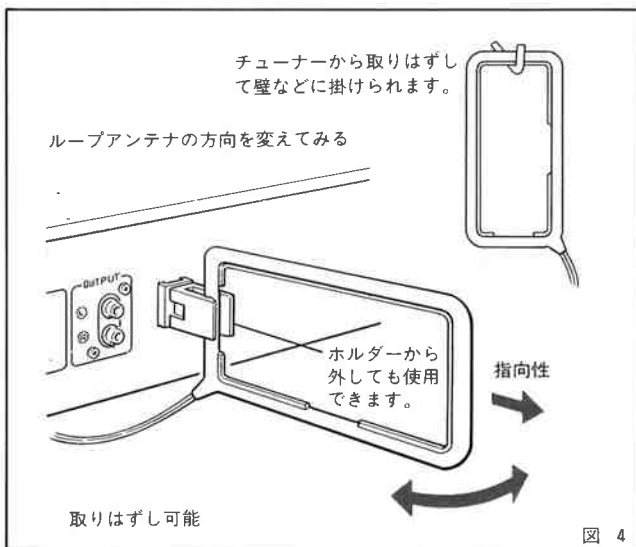
## ■AM アンテナの接続

### 1. AM 専用ループアンテナ

本機では、AM専用のループアンテナを付属していますので接続図のようにAM ANT端子に接続し、希望のAM放送局を選局して図4のようにループアンテナを左右にまわし、受信状態が一番良くなる方向を捜し出してください。

### 2. ループアンテナの使い方

チューナーをラックや棚などに乗せて使用する場合、リ



ヤパネルと後ろの壁との間にスペースがないときは図4のようにループアンテナを取り外し、受信状態の良い方向を決めてから壁などに掛けて使用してください。

### 3. AM リードアンテナ

ループアンテナを調整しても受信状態が悪いときは、3頁接続図のようにAM ANT端子にビニール被覆線を接続し、5~10mを屋外に張ってください。

## ■FM,AM アンテナの設置について

本機はオートサーチ・チューニング（自動選局）方式を採用しています。

FMアンテナ及びAMリードアンテナを設置しても、電波の弱い放送局または遠距離の放送局を受信できない場合がありますので [電界強度FM;  $2\mu\text{V}$ , AM (IHF);  $3\mu\text{V}$  (ループアンテナにて  $100\mu\text{V}/\text{m}$  に相当) までの受信が可能]、受信不可能な場合には今一度アンテナのセッティング場所あるいは高さなどを確認してください。

なお、近くの放送局（強電界地域）を受信する場合、多素子のアンテナやブースター（増幅器）を用いますと、電波が強すぎて受信できない場合がありますのでご注意ください。

## ■ステレオアンプへの接続

本機のOUTPUT(出力)端子とステレオアンプのTUNER(チューナー入力)端子のL, Rを確認して、付属の接続コードで接続します。

## ■AC OUTLET (予備電源コンセント)への接続

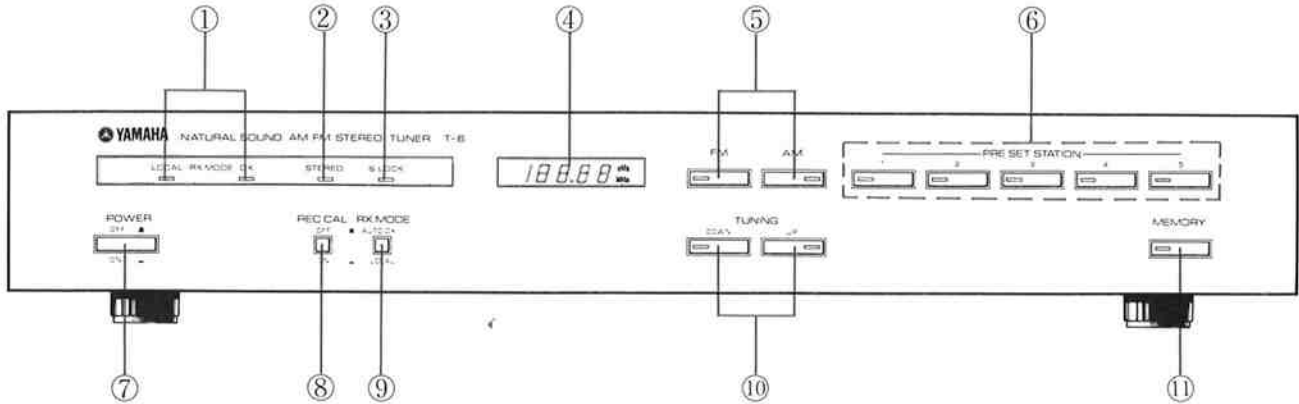
消費電力300W以下の機器は、電源プラグを本機のAC OUTLETに接続し、本機のPOWERスイッチのON/OFFに関係なく使用することができます。

## ■接続上の注意事項

1. 接続コードのプラグは確実に差し込んでください。接続が不完全ですと、音が出なくなったり雑音の発生する原因になります。
  2. 接続コードを電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねたり、小さな直径でぐるぐる丸めたりしますと、不要なハムや雑音を拾ったりすることがありますのでご注意ください。
- 注) テレビや他の受信機の近くには、本機を設置しないでください。相互に悪影響をおよぼし、良い受信ができません。

# 各部の名称と機能

## ■フロントパネル



### ①RX MODE (RX モードインジケータ)

- LOCAL……⑨のRX MODE スイッチがLOCAL ポジションのとき、またはAUTO DX ポジションでも電波が強く妨害のないときは、この緑のインジケータが点灯しLOCAL モードで受信していることを示します。
  - DX……RX MODE スイッチがAUTO DX ポジションのとき遠くの放送局を受信する場合や、電波が弱くなったり妨害電波などがあると、このインジケータが点灯しDX モードで受信していることを示します。
- ※AM 放送を受信しているときはこれらのインジケータは点灯しません。
- ※⑨のRX MODE スイッチの項を参照してください。

### ②STEREO (FM ステレオインジケータ)

FM 放送がステレオ放送の場合には自動的にこの赤のインジケータが点灯し、モノラル放送になると消えます。

※AM 放送を受信しているときは点灯しません。

### ③S.LOCK (ステーションロック・インジケータ)

⑩のTUNING ボタンまたは⑥のPRE SET STATION ボタンで選局し、放送局に同調しロックされるとこの緑のインジケータが点灯します。このインジケータが点灯しないと音は出ません。

なお、大きな妨害信号にロックした場合音が出ないまま点灯することがあります。この場合、再度⑩のTUNING ボタンを押し選局し直してください。

### ④周波数インジケータ

⑤のバンドセレクトボタンで選ばれた放送の受信周波数をデジタルで表示します。

FM 放送では76.0MHz～90.0MHzを、AM 放送では525kHz～1,605kHzの受信周波数を表示します。

※AM 放送受信の場合、同調周波数の表示に±1kHzの誤差を生じることがありますが受信音には関係ありません。

### ⑤バンドセレクトボタン

FM 放送か AM 放送を選択するボタンです。

FM ボタンを押しますとボタン左部に緑のインジケータが点灯し、④の周波数インジケータがMHz 表示になり FM 放送を受信します。

AM ボタンを押しますとボタン右部に赤のインジケータが点灯し、④のインジケータがkHz 表示になり AM 放送を受信します。

※FM 放送受信中にAM に、またはAM 放送受信中にFM に切り換えますと放送局のない所が受信表示されることがあります。この場合は再度⑩のTUNING ボタンまたは⑥のPRE SET STATION ボタンで選局し直してください。

### ⑥PRE SET STATION (プリセット・ステーションボタン)

FM 5局、AM 5局計10局の放送局をプリセットしておくことができます。ボタンを押しますと、ボタン左部に緑のインジケータが点灯し、プリセットされた放送局をワンタッチで選局することができます。

※プリセットのしかたは7頁をご覧ください。

### ⑦POWER (電源スイッチ)

このスイッチを押してON にしますと電源が入り、もう一度押しますとOFF となり電源が切れます。

POWER スイッチをON にしますと、OFF にする前に受信していた放送局が受信され、各インジケータが点灯します。

### ⑧REC CAL (録音レベル設定信号出力スイッチ)

チューナーから録音するとき、録音レベルを設定する信号出力をON/OFF するスイッチです。スイッチをON にしますと、333Hzの信号(FMの50%変調に相当するレベル)がOUTPUT 端子に出てきます。

エアチェックには適切な録音レベルの設定が必要ですが、

REC CAL を利用しますとプログラムに関係なく常に適切な録音レベルを決めることができます。録音レベルを合わせるときは、デッキのレベルメーターの指示が-6 VU~0 VU になるようにデッキの入力レベル（録音レベル）を調整してください。

※REC CAL スイッチは他の全てのスイッチより優先して動作します。またこのスイッチ ON のままで電源を切りますと信号音が多少残ります。

### ⑨RX MODE (RX モードスイッチ)

このスイッチはFM放送受信時IFモードを切り換え、遠距離の放送局や妨害の多い放送局の受信に効果があります。

#### ●AUTO DX ポジション

FM 放送の受信で電波が強く妨害のないときは、ワイドレンジの LOCAL モードで受信し、電波が弱くなったり妨害電波などがありますと選択度の高い DX モードに自動的に切り換わり雑音の少ない受信ができます。

①の LOCAL,DX モードインジケータが点灯し、受信モードを表示します。

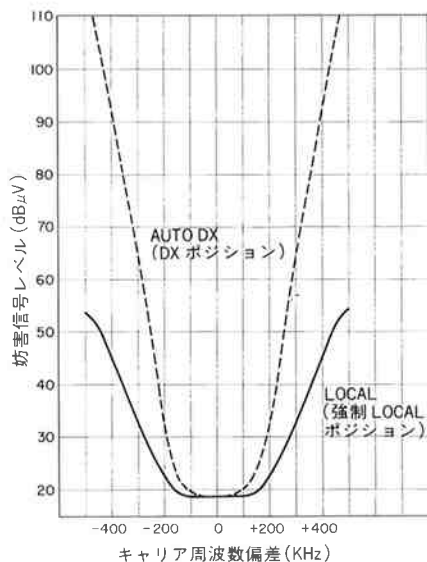
FM 放送、AM 放送共、通常の受信ではこのスイッチは AUTO DX ポジションにしておきます。

※LOCAL モードから一度 DX モードに切り換わりますと、電波の状態が回復しても LOCAL モードには自動復帰しません。この場合は、⑥の PRE SET STATION ボタンでもう一度離調し選局し直すか、一時このスイッチを LOCAL ポジションにしてください。

※⑩の TUNING ボタンで選局する場合このスイッチを AUTO DX ポジションにしておきますと、電波の強い放送局、弱い放送局に関係なく受信ができます。

## ■特性例

### ●2 信号選択度



### ●LOCAL ポジション

放送局に近く電波が十分に強く、妨害の少ない地域で使用の場合あるいは、AM,FM共電波の弱い放送局は受信しないで強い局のみ受信する場合は、スイッチをこのポジションにしておきます。FM放送では①のインジケータの LOCAL 側が点灯し、解像度が高く透明感のあるワイドレンジな音質で受信できます。

◎下に FM 放送受信時での RX MODE スイッチを切り換えたときの選択度と、信号及びノイズレベルの特性例を記載しますのでご参照ください。

### ⑩TUNING (オートサーチ・チューニングボタン)

放送局を選局するボタンです。

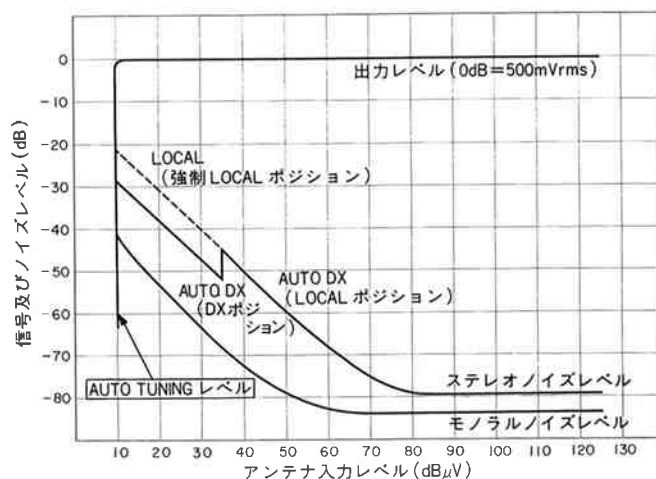
DOWN ボタンを押しますとボタン左部に緑のインジケータが点灯し、④の周波数インジケータに表示された周波数が下がっていき放送を受信すると止まります。ボタンを押し続けると周波数はさらに下がり、最低周波数まで下がると最高周波数に移り同じ動作を続けます。逆に UP ボタンを押しますとボタン右部に緑のインジケータが点灯し、DOWN ボタンを押したときの逆の動作をします。

### ⑪MEMORY (メモリーボタン)

このボタンを押しますと、ボタン左部に赤のインジケータが点灯します。⑥の PRE SET STATION ボタンに放送局 (FM 5 局, AM 5 局) の周波数をプリセットするとき、このボタンを押しながら⑥のステーションボタンを押しメモリーさせます。

詳しくは7頁のメモリーの手順を参照してください。

### ●アンテナ入力に対する信号及びノイズレベル



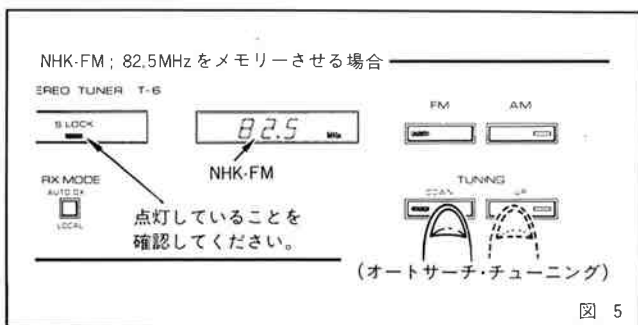
# プリセット及びAM,FM 放送の受信の仕方

本機はTUNING ボタンによるオートサーチ・チューニングの他に、PRE SET STATION ボタンによるプリセット・チューニングができます。これはボタンをワンプッシュするだけで、あらかじめメモリーされた放送局を受信するというスピーディで操作性の良い選局機能です。

## ●メモリーの手順

NHK-FM: 82.5MHz を PRE SET STATION ボタン1 にメモリーさせる場合を例にして説明します。

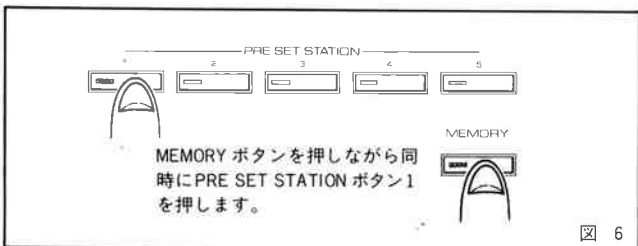
1. バンドセレクトボタンのFM ボタンを押しFM 放送を受信します。
2. TUNING ボタンの DOWN あるいは UP ボタンを押し、周波数インジケータの表示が 82.5 MHz になります (オートサーチ・チューニング)。周波数が 82.5 MHz になりましたら、S.LOCK インジケータが点灯していることを確認してください。



3. MEMORY ボタンを押しながら、PRE SET STATION ボタン1 を押します。これで、NHK-FM: 82.5MHz は PRE SET STATION ボタン1 にメモリーされたこととなります。(図6)

AM 放送も同様に、オートサーチ・チューニングでプリセットしたい放送局を受信しておき、MEMORY ボタンでメモリーします。

以上のようにして FM 5 局, AM 5 局計10局の放送局をメモリーし、プリセット・チューニングすることができます。



4. メモリーを変更したいときは、メモリーするときと同じ手順で前の上にメモリーします。前のメモリーは消えて新しくメモリーができます。

## ●チューニングの手順

1. バンドセレクトボタンで FM 放送あるいは AM 放送を選びます。
2. PRE SET STATION ボタン 1 ~ 5 で、聴きたい放送局をメモリーしてあるボタンを押すだけで選局できます。  
※プリセット・チューニングだけでなく、TUNING ボタンによるオートサーチ・チューニングもできます。

## ■メモリーご使用上の注意

- 一度プリセットした放送局を消さないために、内部にメモリーバックアップ回路を内蔵しています。このため、停電や POWER スイッチの ON/OFF で一時的に電源が切れても、メモリーの内容が消えることはありません。
- 電源プラグはできるだけ家庭用コンセントか、アンプの AC OUTLET の UNSWITCHED をご使用ください。本機の POWER スイッチの ON/OFF に関係なくメモリーバックアップ回路が働きます。内蔵のバックアップ回路は電源プラグをコンセントから抜いた場合でも、約2日間はメモリー内容を保持します。オーディオタイマーで電源を ON させる場合、2日以後に ON させるようにセットしますと、メモリー内容が消えることがありますのでご注意ください。もし、メモリー内容が消えた場合には、再度メモリーし直してください。

## ■メモリーカードの記入例

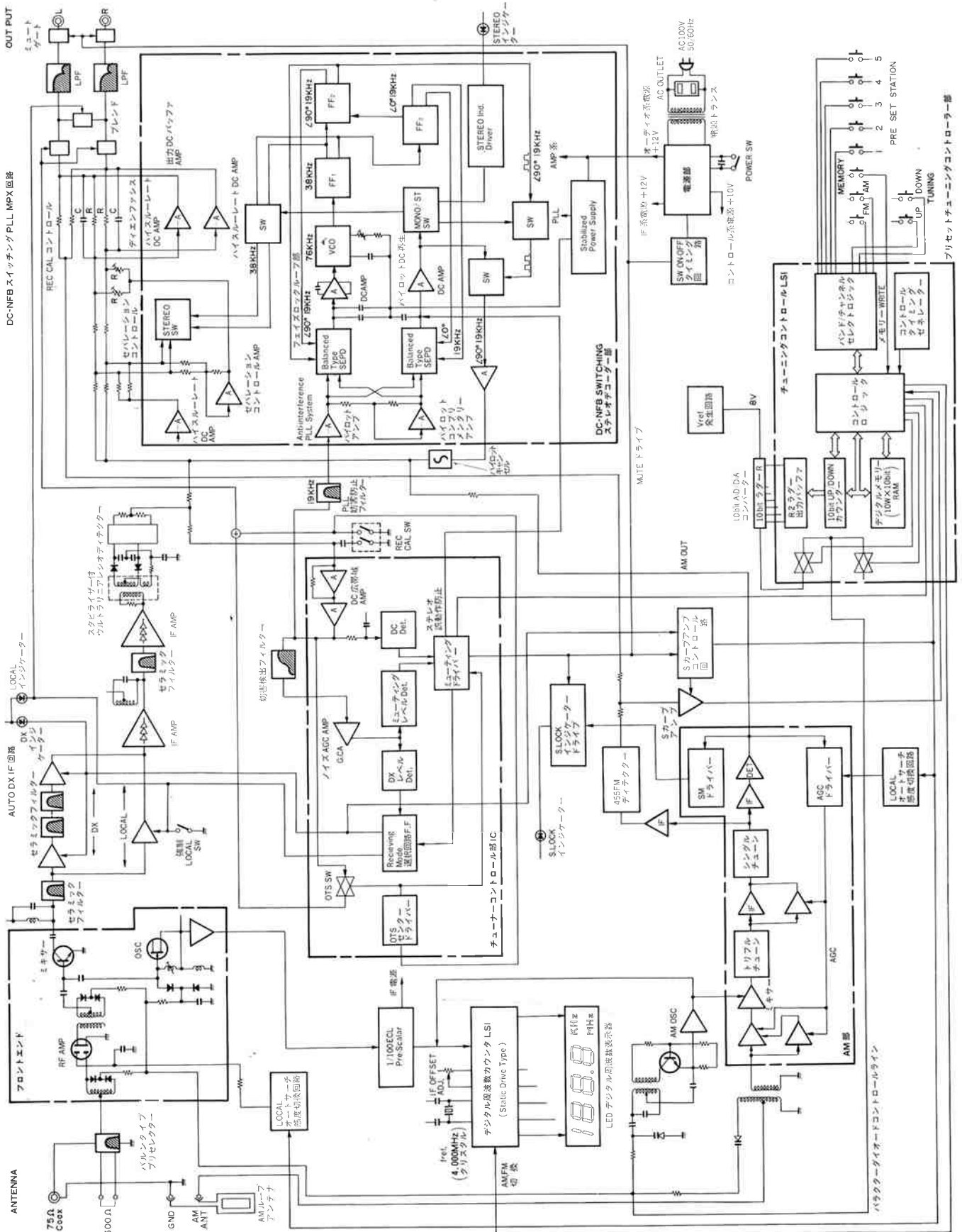
付属のメモリーカードは切り取って下の記入例を参考にしてご使用ください。

▼記入例 (メモリーカードを本書10頁に添付してあります。)

T-6 AM FM STATION MEMORY CARD					
PRE SET STATION					
	1	2	3	4	5
FM	80.0 MHz FM 東京	80.7 MHz NHK 千葉	81.9 MHz NHK 横浜	82.5 MHz NHK 東京	85.1 MHz NHK 調和
AM	594 kHz NHK 第1	954 kHz TBS	1134 kHz 文化放送	1242 kHz ニッポン放送	1422 kHz ラジオ関東



# ブロックダイヤグラム



# 参考仕様

## ■FMチューナーセクション

受信周波数	76~90MHz
50dB S/N 感度	
MONO(DX)	4 $\mu$ V(17.3dBf)
STEREO(DX)	27 $\mu$ V(33.9dBf)
実用感度 (IHF MONO, 84MHz)	
300 $\Omega$	2 $\mu$ V(11.2dBf)
75 $\Omega$	1 $\mu$ V(11.2dBf)
イメージ妨害比(84MHz)	59dB
IF 妨害比(84MHz)	100dB
スプリアス妨害比(84MHz)	100dB
AM抑圧比(IHF)	50dB
実効選択度(IHF)	
LOCAL	25dB
DX	70dB
キャプチャレシオ(IHF)	
LOCAL	1.5dB
DX	2.2dB
SN比(IHF)	
MONO	82dB
STEREO	79dB
全高調波歪率	
MONO 100Hz	0.05%(LOCAL), 0.1%(DX)
1kHz	0.05%( " ), 0.3%( " )
6kHz	0.08%( " ), 0.7%( " )
10kHz	0.05%( " ), 0.1%( " )
STEREO 100Hz	0.05%( " ), 0.1%( " )
1kHz	0.05%( " ), 0.5%( " )
6kHz	0.08%( " ), 0.8%( " )
10kHz	0.1%( " ), 1.5%( " )
IM〔混変調〕歪率 (IHF)	
MONO	0.05%(LOCAL), 0.5%(DX)
STEREO	0.08%( " ), 1.0%( " )
ステレオセパレーション	
1kHz	55dB(LOCAL)
50Hz~10kHz	45dB( " )
周波数特性	50Hz~10kHz $\pm$ 0.3dB
	30Hz~15kHz $\pm$ 0.5dB
	10Hz~18kHz $\pm$ $\frac{+0.5}{-3.0}$ dB
サブキャリア抑圧比	52dB
AUTO DX 動作レベル	
(ステレオ時妨害レベル約-50dBにてDX MODEに自動切換)	

## ■AMチューナーセクション

受信周波数	525~1,605kHz
実用感度(IHF)	15 $\mu$ V
選択度(1,000kHz $\pm$ 10kHz)	26dB
SN比	46dB
イメージ妨害比(1,000kHz)	40dB
スプリアス妨害比(1,000kHz)	50dB
全高調波歪率	0.5%

## ■オーディオセクション

### 出力レベル/インピーダンス

FM(100%変調, 1kHz)	500mV/2.4k $\Omega$
AM(30%変調, 1kHz)	150mV/2.4k $\Omega$
REC CAL 信号(333Hz、FM時の50%変調に相当)	250mV/2.4k $\Omega$

## ■付属機構

- AM, FM 各5局プリセット・チューニング機構  
(メモリーバックアップ回路内蔵)
- オートサーチ・チューニング機構 (UP/DOWN)
- ステーションロック・インジケータ
- RX MODE スイッチ (IF 選択; AUTO DX/LOCAL)
- AUTO DX 連動オートブレンド機構
- REC CAL 機構
- ラストチャンネルメモリー機構

## ■総合

使用半導体 IC	10
トランジスタ	40
FET	3
ダイオード	21
ツェナーダイオード	6
LED	14
7セグメント LED 周波数表示器	1
AC アウトレット	300W MAX
定格電源電圧・周波数	AC100V 50/60Hz
定格消費電力	9W
外形寸法 (W×H×D)	435×72×262.5mm
重量	3.1kg
付属品	
FM 同軸ケーブル用プラグ	1
FM T字型簡易アンテナ	1
出力コード	1
メモリーカード	4
(本書に付属)	

※仕様および外観は改良のため予告なく変更することがございます。

# 故障と思われるときには

本機をご使用中に正常に動作しなくなった時は、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りの日本楽器ステレオサービス係宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

	症 状	原 因	処 置
FM 放 送 受 信 時 の ト ラ ブ ル	"バリバリ、ガリガリ"という雑音が時々入る（電波の弱い地域ほど著しい）	モーターバイクや自動車などのイグニッションノイズ	FM専用アンテナをできるだけ高く、道路から離れた位置に建て、同軸ケーブルを使用してください
		サーモスタットつき電気器具の雑音	雑音を発生している電気器具に雑音防止器を取り付けてみてください
	ステレオ放送になると雑音が多くなり聞きづらい オートサーチ・チューニング(自動選局)ができない	FMステレオ放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起こる	アンテナの接続を確認してください
			FM専用アンテナを建ててください
			FM専用アンテナを多素子のものにしてみてください
	ステレオ放送受信時、FM STEREOインジケータがチカチカ点滅し雑音も多い	アンテナ入力の不足	受信地域の電界強度に合ったアンテナを建ててください
		同調が完全にとれていない	もう一度同調をとり直すか、メモリーし直してください
	FM専用アンテナを建てているが音が歪み、クリアな受信ができない	マルチパス妨害をおこなっている	アンテナを指向性の良いものに交換するか、マルチパスを受けにくいところにアンテナを設置してください
	ステレオ・テスト放送で、左側の音が右側にもれる	クロストーク(漏話)現象で、わずかに出ている場合は正常	右側へのもれが左側の音に比べ、極くわずかであれば正常で、故障ではありません
	プリセット・チューニングができない	2日以上、電源プラグがコンセントから抜いてあったため、メモリーが消えている	もう一度メモリーしてください
AM 放 送 受 信 時 の ト ラ ブ ル	感度が充分でない オートサーチ・チューニング(自動選局)ができない	電波が弱いあるいはアンテナの接続が確実でない	AMループアンテナを取りつけ直してください
			AMループアンテナの方向を変えてみてください
			RX MODEスイッチをAUTO DXポジションにしてみてください
			屋外にAM用アンテナを張ってみてください
	"ジー"、"ザー"、"ガリガリ"などの連続雑音が出る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具による雑音	AM用屋外アンテナを張り、アースを完全にとると減少しますが、完全に除去するのは困難です
	"ビー"、"チー"、"シーン"などの音が入る（特に夜に多い）	隣接局の電波が受信中の放送周波数と干渉を起している	隣接局の干渉はやむを得ません
テレビなどをそばで使用している		テレビセットから離して使用してみてください	

# サービスのご依頼について

●サービスのご依頼は、お買い上げ店、または日本楽器ステレオサービス係へお願い致します。

■ステレオの保証は、保証書によりご購入日から満1ヵ年です。尚、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。(日本国内のみ有効です。)

■保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か、右記、お近くのサービスネットワーク(ステレオサービス係)宛お問い合わせください。

## ■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中の「故障と思われるときには」(前ページ)をお読みになってください。意外と故障でない場合があるものです。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただく場合もございますのでご注意ください。)

## ■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、お住まい、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(セットの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客様にご迷惑をおかけしなさいませんように。)

## ■日本楽器ステレオサービス係への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買い上げ店、または最寄りの日本楽器ステレオサービス係へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄ステレオサービス係の所在地と電話番号をご参照ください。)

## ■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。) ※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

## ■サービスのお約束

昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようお願い致します。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)

## ■サービスネットワーク(ステレオサービス係)

北海道事業所・〒064	札幌市中央区南十条西1丁目(ヤマハセンター内) TEL (011)512-6111
仙台事業所・〒980	仙台市1番町2丁目6-5 TEL (0222)23-3101
東京事業所・〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03)255-2241
浜松営業所・〒430	浜松市田町32(東京海上ビル5F) TEL (0534)54-4115
名古屋事業所・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
北陸出張所・〒921	金沢市泉本町7-7(ヤマハ金沢センター) TEL (0762)43-6111
大阪事業所・〒550	大阪市西区江戸堀1-9-1(肥後橋センタービル6F) TEL (06)445-6421
四国出張所・〒760	高松市西宝町2丁目6-44(高松センター) TEL (0878)33-2233
広島営業所・〒731-01	広島市安佐南区祇園町西原2205-3 TEL (08287)4-3787
九州事業所・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)472-2151

## ■日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL.0534(65)1111
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL.03(572)3111
銀座店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL.03(572)3131
横浜支店	〒231 横浜市中区本町6-61-1 TEL.045(212)3111
横浜店	〒220 横浜西区南幸2-15-13 TEL.045(311)1201
千葉支店	〒280 千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内 TEL.0472(47)6611
関東支店	〒370 高崎市歌川町8番地/高崎センター内 TEL.0273(27)3366
大阪支店	〒564 吹田市新芦屋下1-16 TEL.06(877)5151
心斎橋店	〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL.06(211)8331
神戸支店	〒651 神戸市灘区浜辺通り6丁目1の36 TEL.078(232)1111
神戸店	〒650 神戸市生田区元町通2-188 TEL.078(321)1191
四国支店	〒760 高松市西宝町2丁目6-44 TEL.0878(33)2233
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL.052(201)5141
北陸支店	〒921 金沢市泉本町7-7 TEL.0762(43)6111
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092(472)2151
小倉店	〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL.093(531)4331
北海道支店	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL.011(512)6111
仙台支店	〒983 仙台市原町南目薬師堂北2-1 TEL.0222(95)6111
広島支店	〒730 広島市紙屋町1-1-18 TEL.0822(48)4511
浜松支店	〒430 浜松市田町32 TEL.0534(54)4115
浜松店	〒430 浜松市鍛冶町122 TEL.0534(54)4111
海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・シンガポール・フィリピン